

新型コロナウイルス感染拡大の状況における大学の対応について(福井大学)

1. 新型コロナウイルス感染症に対応して、教育課程の実施、授業の方法等について、学生の学習の質を維持するために行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄

【遠隔授業ポータルサイトの開設と受講環境の整備】

コロナ禍に伴い、令和2年度当初からの遠隔授業(オンライン授業)のスムーズな実施を図るため、学生と教職員をサポートする「福井大学遠隔授業ポータル」を教職協働で開設し、遠隔授業における各種ツールの活用方法、著作権への対応など、遠隔授業を実施する上で有用な情報の提供を行い、これも一助となり支障なく遠隔授業が実施できた。授業開始前に全学生に対して実施した通信環境に関するWebアンケート結果を受けて、Webカメラ付ノートパソコン33台を準備し、通信環境がない学生に貸し出すとともに、本学近郊の学生には学内のパソコンルームやWiFi環境のある教室での受講を認める措置を講じた結果、令和2年度当初から混乱なく遠隔授業を開始することができた。

【安全・安心な修学環境の整備】

コロナ禍における学生の学修の質維持に資する安全・安心な修学環境の整備に向けて、大学の自己収入(計30,081千円)を投入し、空調機等の取替工事のほか、講義室消毒やフェイスシールド等の感染防止対策、学生貸し出し用PC購入などの遠隔授業対応等を実施した。また、寄附金・補助金等(計101,890千円)を活用して講義室の改修や空調設備の改修、衛生対策を行い、さらに福井大学基金及びふるさと納税補助金「新型コロナ学生支援事業」を活用(計5,920千円)し、講義室等の感染予防・感染拡大防止対策等を実施した。併せて、義務教育学校のタブレット整備による児童生徒の修学環境の整備など、文部科学省補正予算関係(計80,551千円)を活用した整備を実施した。

【新たな遠隔授業システムの開発・整備】

松岡キャンパス(医学部)では、附属病院が隣接し、臨床実習などで学生の行き来もあることから、一層のコロナ感染症対応を進めている。その一環として、医学部附属教育支援センターと民間企業の産学連携により新たな遠隔授業支援システム「F.MOCE」(Fukui-Medical Online Communication & Education System)を開発した。このシステムは、コロナ禍を背景に、“人が本来すべき”であった授業や指導、支援に時間を割くことができるよう、教員用/学生用のアプリケーションとして独自に開発したものである。分かり易い画面構成を採用し学生のシステム利用への不安を軽減しつつ、教職員の業務効率化を図っている。教員は専用アプリから講義動画やプリント資料などを簡単にアップロードでき、学生に向けた自動配信のほか、学生からの質問・感想なども自動で集計できる。更に体温などを記録するツールも盛り込み、教職員は学生の受講状況とともに健康状態の把握もできる。この「F.MOCE」は、オープンソース・ソフトウェアとしてネット公開・無償配布を行っており、リモート教育の拡大に資している。本取組は、国立大学協会機関紙ホームページなどで紹介され、また各種メディアに取り上げられ、高い注目を得た。さらに令和2年度に係る業務実績評価結果において「注目される事項」として取り上げられ、第3期中期目標期間(4年目終了時)に係る業務実績評価結果において「特色ある点」として評価された。

【学生のオンライン海外交流の実施】

コロナ禍のため渡航による学生の海外交流が困難となり、その代替として以下のような取組を実施した。
・工学部では、「西安オータムプログラム」の代替として、双方の学生がプレゼンテーションを行うオンラインシンポジウムを開催した。また、フィリピン・アダムソン大学の建築学部と本学工学部・建築・都市環境工学科との間で共同ウェビナーを開催し、両大学から計530名が受講した。今回の共同ウェビナーはウィズコロナ時代のオンライン国際共修の先行例となるものである。
・医学部では、学生を派遣する予定であった協定大学の医師や、海外で活躍する日本人医師に動画の作成を依頼し、医学部のオンライン授業システムF.MOCE上に動画をアップする方法にて、Fukui Global Medical Education Seminar(F.GMES)を開催し、参加者から好評を得た。
・交換留学が必須の国際地域学部と海外実習先を整備していた医学部において、留学の代替としてオンライン研修を学生に案内し、その他の学部も合わせて延べ34人がオンラインプログラムを受講した。なお、令和3年度には、福井大学基金等を原資として、その受講費用の一部を支援した。

2. 新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の学習及び生活の支援について行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄

【経済的学生の取組】

コロナ禍における授業料納入期限の延長措置に加え、福井大学基金や福井県のふるさと納税等を活用し、コロナ禍の影響によるアルバイト収入減で経済的に困窮する学生(延べ約1,400名)に対して奨学金を支給した。奨学金は収入減の状況に応じて1カ月分ごとに申請を受け付け、困窮度に応じ1~3万円を継続的に支給するもので、年度当初(令和2年4月分)から毎月、申請を受け付けた。このような継続的な奨学金は全国的にも珍しく、学生からも好評を得ている。さらに、コロナ禍の影響で経済的な理由により修学の継続が困難な学生が、修学を断念することなく安心して修学を継続できることを目的とした緊急学生修学支援給付型奨学金を、福井大学基金を原資として令和3年3月に新たに創設した。月額奨学金(月額5万円、支援限度額30万円)又は授業料相当額奨学金(最大26.7万円、1回限り)の支給と併せて、他の奨学金等を紹介するなどのフォローを進めている。

【学生の感染予防・健康管理支援の取組】

コロナ禍における講義室等の感染予防・感染拡大防止対策等を実施したほか、冬季におけるインフルエンザとの混合感染回避のための予防接種経費の一部補助(約1,200名)、学外実習時等のPCR検査費用負担等の財政支援を行った。留学生同窓会・同窓生から支援があった3万枚のマスクや医療用マスクを活用し、学生への直接配付、教育実習用等に充当した。また、コロナ禍の経済困窮から問題となっている「生理の貧困」を心配した県内在住の医師(卒業生)から寄附の申し出があり、令和3年4月からの、基金も活用する継続的な生理用品配付支援に繋がった。

【オンライン学生支援の取組】

コロナ禍における遠隔授業導入に伴う医学部学生のコミュニケーション不足を補う目的から、医学部キャンパス内の学生同士の交流の場である「コミュニケーション・スペース(コムスぺ)」をオンライン上で再現した「コムスぺ・オンライン」を令和2年度に開設した。遠隔授業中心の大学生活において、学生は学業や学生生活の時間を学生同士で共有することが困難になり、特に新入生の不安が相当なものであった。こうした状況を緊急的に解決する必要性から、「コムスぺ・オンライン」では、学生や教職員が気軽に参加し、学生相談室カウンセラーがホストとして常駐して、学生の日頃の悩みや学生生活のアドバイスを与えるなどして学生支援を行なった。本取組には多くの学生が参加し、好評を得るとともに、メディアに取り上げられ高い注目を得た。